

社会科

6年 世界の未来と日本の役割

2/6
(金)

ゲストティーチャー

JICA バングラデシュ事務所所長 市口知英さん



JICAの取り組みについて聞く

これまでユニセフやJICA海外協力隊について学んできた子どもたちは、日本が国際協力をする意味を深く考えるため、市口さんからお話を聞きました。この日はバングラデシュの週末にあたり、オフィスも休日でしたが、市口さんには3クラス分の授業にご対応いただきました。

前半のお話では、国際協力をする理由、JICAの取組やバングラデシュの特徴を教わりました。バングラデシュの人口は、若い世代がとても多く、国内産業の自立的発展のためにも人材の育成など技術協力が必要だそうです。後半は、質問をしたり、自分たちの考えを市口さんに発表したりしました。そこには、国際協力をする上で大切な心構えを教わり、自分にできることを捉えている子どもたちの姿がありました。



JICAの取組について



一言一句逃さず聞きます



素晴らしい質問が続出!



発表への評価をいただきました

6年 長く続いた戦争と人々の暮らし

2/19
(木)

ゲストティーチャー

リリア・ゴルロさん、カテリーナ・ポブロジクさん



戦争を体験した人の話を聞いて、戦争に対する自分の考えをもつ

今まだ続くロシア・ウクライナの戦争。家族を残し日本に避難して4年のリリアさんとカテリーナさんから、当時のことやウクライナの現状を聞きました。

2022年2月24日の朝、爆撃音で目覚めたカテリーナさんは、すぐに祖母のいる地方の村へと普段の3倍の時間がかけて車で移動しました。移動中も絶え間なく続く爆撃音、攻撃がどんどん近づいてくるように思え、パニックにならないように心がけたそうです。リリアさんはポーランドに留学中でした。列車などを使い何日もかけて避難してきた人たちを集めて支援を行ったそうです。お二人とももうすぐ社会人になるという時期でした。

現在も爆撃が続くウクライナでは、経済を回そうと仕事や生活を続けているそうです。教師として働くカテリーナさんのお母様が、今回の授業用にと学校の様子を動画にして送ってくれました。発電所が爆撃されたため電力・暖房供給がない中で、同じ年代の子が毛布をかぶり、薄暗い教室で授業を受けている場面では驚きの声があがり、そして楽しそうに雪で遊んでいる場面ではほっとしている姿がありました。最後におふたりから、戦争にならないための考えを聞きました。「違いを受け入れ、理解する」という部分では、身近なけんかもそのままにしないで話し合うとよいとアドバイスをもらいました。

ニュースでは見聞きできない実体験を聞いた子どもたちは、自分ごととして捉え、平和であることが当たり前ではなく、それを守り続けるにはどうしたらよいかを、しっかりと考えていました。

